

島根県立石見美術館

コレクション展「中世の益田氏」の開催について

島根県立石見美術館では、コレクション展「中世の益田氏」を下記のとおり開催します。

益田氏は、平安時代末期から戦国時代にかけての「中世」とよばれる時代に石見地域を支配した豪族です。当館では第20代当主の肖像画《益田元祥像》を所蔵しています。

今年は元祥が父・藤兼とともに毛利元就の居城を訪れ、和睦の宴を催してから450年目にあたります。この節目の年に、《益田元祥像》を所蔵する当館と、古文書を元に宴の料理を再現している益田「中世の食」再現プロジェクト、そして益田市内飲食店街がコラボレーションしたイベントも開催します。

記

1. 会 期 平成30年11月7日(水)～12月17日(月)

休 館 日：毎週火曜日

開館時間：10:00～18:30 (展示室への入場は18:00まで)

2. 会 場 島根県立石見美術館 展示室B (グラントワ内)

3. 概 要 《益田元祥像》を中心に、益田家伝来の品々を紹介

4. 展示作品 絵画1点、装束3点、兜1点、「益田家文書」レプリカ (益田市教育委員会蔵)

① 《金箔押十二間阿古陀形筋兜》桃山～江戸時代初期

② 狩野松栄《益田元祥像》桃山時代【重要文化財】



①



②

5. 関連イベント

① ミュージア vol. 6 「中世の食」450年記念 「よみがえる戦国の宴」

美術館と劇場、そして地域が連携し、芸術と食と歴史が織りなすエンターテインメント。

第1部では、益田「中世の食」再現プロジェクトによる「中世益田の祝い膳」をふるまう。料理再現の元となった古文書のレプリカは、コレクション展「中世の益田氏」に展示されます。

第2部では、毛利氏のお抱え狂言師であった鷺流狂言を今に伝える「山口鷺流狂言保存会」による、戦国時代にも楽しまれた狂言を上演。狂言や、益田氏と毛利氏の関係を解説するトークも実施。入場者には、中世の食再現プロジェクトから生まれた一品料理も提供します。

日時：平成30年12月15日（土）

第1部：益田家の祝い膳を味わう（限定40食） 13時45分開場／14時開宴

第2部：毛利家ゆかりの鷺流狂言を観る 14時30分開場／15時開演

会場：島根県芸術文化センター「グラントワ」（第1部：多目的ギャラリー、第2部：小ホール）

料金：第1部・2部通し券 2,500円（料理付）、第2部 1,000円（飲み物・一品付）

※第1部のみのチケットはありません。

出演：山口鷺流狂言保存会

料理提供：益田「中世の食」再現プロジェクト

主催：アートで楽しむ益田の歴史プロジェクト実行委員会

② 中世益田を感じられる一品料理×グラントワコレクション展「中世の益田氏」

コレクション展「中世の益田氏」とタイアップした、歴史と食を楽しむイベント。「中世の食再現プロジェクト」から生まれた商品「はむ」「煎り酒」「与三右衛門」を使用した一品料理を、益田市内の飲食店街が考案し、提供します。

開催期間：平成30年11月7日（水）～12月17日（月）

参加店舗：市丸、紺家、寿司処みのり、すすみや、鉄板ダイニング Taishi、暢ぺ、

Foods×Bar sAku、Lemonade

主催：「中世の食」450年事業実行委員会

【参考】

* 益田「中世の食」再現プロジェクトとは？

益田市内の飲食店業者や料理研究者ら有志によるグループ。「益田家文書」に記された、益田氏が毛利氏をもてなした料理の献立を元に、宴会の料理の再現を試みている。同プロジェクトからは、「はむ」（トビウオのすり身と豆腐、自然薯を用いたはんぺん）、「煎り酒」（醤油が発明される前の中世の調味料）、「与三右衛門」（中世の手法で作られた酒）が商品化され、歴史にちなんだ食材、土産物としての普及を目指している。

* よみがえる戦国の宴

平成27年度（初回の名称は「十五夜ノ宴」）より、《益田元祥像》をシンボルとし、益田「中世の食」再現プロジェクトと石見美術館、いわみ芸術劇場、益田市などが連携して実施している、芸能と食とともに楽しむイベント。